

「幸福」をどのように教室で学習するのか

金子 幹夫（神奈川県立平塚農業高等学校 初声分校）

1. はじめに

（1）高校の日常

休み時間に携帯電話をじっと持ち続けている高校生がたくさんいる。電話機なのだから、楽しげな会話をすればいいのと思うのだが、どうも違うようである。じっと画面を見ている生徒、メールを打ち続けている生徒、そして電話機本体一面に貼られた友人と撮影したプリント倶楽部の写真を見ている生徒がいる。高校生にとって「幸福」を感じている一場面なのであろう。その一方で、財布からポイントカードを出して自慢している生徒も多数いる。「あなたは何枚のポイントカードを財布の中に入れてありますか？」という調査を行った。任意の58名の高校生を調査した結果、平均所持枚数は8.7枚であった。最も多い生徒は50枚のカードを財布の中に入れていた。「ポイントをためるのがたまらなく楽しい。得した気分になる。」という声が多かった。

さて、本稿の主たるテーマは「幸福」である。この「幸福」をどのように研究対象とするのかを次に順を追ってときほぐしていきたい。

（2）高校生と「幸福」～どのように研究テーマとして生成させるのか～

本稿の研究テーマが誕生するまでの背景をまとめると次のようになる。

第一に、高等学校「公民科」の現代社会では「現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる」と学習指導要領に記載されている。具体的にこの現代社会の諸課題としては「生命、情報、環境などを扱うこと」となっている。（註1）

第二に、中学生は身近な生活の中で「効率と公正」を学ぶことになっている。この日常生活の中での学びをふまえて高校での学習につなげていくのである。

第三に、定められたとおりに、「中学校の学習内容と継続させて幸福と幸福の対立が生命や情報、環境問題でおこった場合を考える」という授業を展開できるのだろうかという不安がある。本稿では、ここに疑問を投げかけてみたい。それぞれの教室ごとに生徒の状況、教材、教師の行為を編み込んだカリキュラム編成があってもよいのではないかと考えるからである。教室の中で生徒が感じ取っている「幸福」を、高校の学びのテーマとしての「幸福」につなげるにあたって、カリキュラムの再構築という仕掛けが必要なのだという提案ができれば、本研究の目的は達成されることになる。（註2）

2. 研究の目的

（1）研究の目的

本研究の目的をまとめると次のようになる。

第一の目的は、教師が高校の公民科授業案を作成するという行為において、生徒の現状を把握した上での再構築の連続が有効であるということを明らかにすることにある。本研

究のフィールドにいる高校生には、中学校の学びとの厚い接続教材という仕掛けを作成することが有効だということを明らかにしたい。

第二に、「幸福・正義・公正」を深く理解するためには、物語性のある教材が有効なのではないかということを明らかにしたい。

以上が研究の目的であるが、もう少し詳しくまとめると次のようになる。

新学習指導要領では「①中学校までの社会科学習の成果を活用すること、②多面的・多角的に考察しようとする態度と公正で客観的な見方や考え方に立つこと」の二点を公民科の目標の中で唱えている。一方で、学習の順番を見ると3つある大項目の一番目に「私たちの生きる社会」と題して、「現代社会における諸課題」について学び、その内容は、「生命、情報、環境など」となっている。本稿の問題意識は、本研究のフィールド内にいる高校生の学習状況を見ると、この順番通りにカリキュラムを構築すると、深い学びが難しいと考えたところにある。中学校までの学習の成果を活用するためには一度それまでの学習成果を掘り起こす作業が必要である。その上で、身近な生活の中から「幸福、正義、公正」について考え、その次に「経済」や「政治」の基本的な考え方を習得してから教科書の冒頭に戻って「現代社会における諸課題」に取り組んだ方が、大きな視点で「幸福、正義、公正」を理解することができるのではないかと考えた。よって、本稿ではワークシートで生活に身近なところで「幸福」について考え、次に一般の経済学を学習し、その上で現代社会の諸課題を考えるというデザインが有効なのではないかという仮説を立てた。

3. 研究の方法

本研究は、高等学校公民科の授業実践を中心に分析を行う。対象は、高校の公民科の授業を受けている生徒である。学習内容は経済分野である。予備調査を男子25名、女子57名を対象に行い、その後、検証授業を別のクラスの男子6名、女子5名を対象に行った。

研究方法の第一として、高校での経済学習を展開するために、中学校での学びとの接続を意識したワークシートを作成した。タイトルは「コンビニに行こう」である。この教材で、経済の細かな仕組みを学習する前に、「効率と公正」そして「幸福」・「正義」・「公正」を学ぶきっかけをつくろうと試みた。(註3)

第二は、この教材を中心に生徒の自由記述を分析し、その変化を捉えようと試みた。

4. 研究の成果

(1) 教材「コンビニに行こう」の作成

(ア) 教材を作成した理由

作成理由の第一は、中学校からの学習を高校に接続させるために、身近な生活の中から社会を見つめることによって経済のしくみを再認識してもらいたいということがあげられる。第二として、日常生活における「幸福」と「幸福」の対立を考えることによって、これから高校で学ぶ大きな枠組みでの「幸福」を考えるときの準備を整えるということがあげられる。(資料1)

【資料1】



(イ)「コンビニに行こう」の概略

今回作成した「コンビニに行こう」という教材は、コンビニでアルバイトをしている高校生が、様々な出来事に出会う様子をクラス全員で考えながら授業を進めていくというワークシートである。その概要は次の通りである。

春のある晴れた日の夕方、いつものように主人公（このワークシートをやっている一人ひとりの高校生、つまり自分）はコンビニにアルバイトに向かった。この日は、売り上げを伸ばすための販売促進策として、フランクフルトの安売りをを行うことになっていた。通常価格一本100円のフランクフルトが、このセールでは夕方5時より二本で100円で売るという企画である。アルバイトに入った高校生は、仕事が始まるやいなや、このセールに直面するのであった。この日のアルバイトは主人公を含めて高校生が2名。店長はこの日の19時までに本部に出さなければいけない書類を作成しており、レジを手伝う余裕はない。店にはフランクフルトの安売りを目当てに8人のお客様がやってきた。ここまで、場面設定である。

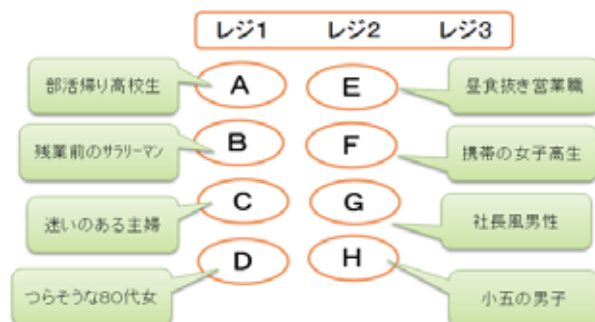
さて、次は登場人物の紹介である。本教材では、個性豊かな8人の人物を来客者として設定した。具体的には次のとおりである。

- A・・・部活動帰りの高校生男子。見た感じ、すごくおなかがすいている。
- B・・・残業をこれからやろうとしているサラリーマン。20歳代男性。
- C・・・何を买おうか迷いの見える40歳代主婦。
- D・・・立っているのも辛そうな80歳代女性。
- E・・・今すぐに職場に戻らなければいけないが、昼食をとる時間もなく働いている、とても忙しい営業職。30歳代男性。
- F・・・携帯電話をいじっている女子高生。友だちと待ち合わせで少し急いでいる。
- G・・・会社社長風の男性。いつもは入らないコンビニに来て、少し戸惑っている。
- H・・・お小遣いを手て買物に来ている小学5年生くらいの男子。

この8人が、セール開始と同時に2つのレジに並んだ。順番は資料2の通りである。「このときのレジに立っているアルバイトのあなたの気持ちを表してみましょう」というのがはじめの質問である。生徒全員に自由に記述してもらった。ここからが本教材のメインの部分になる。レジの仕事を懸命にこなしている高校生のもとに様々な出来事が起こる。第一番

目の出来事は、長蛇の列の中、残業前のサラリーマンが突然に振込用紙を5枚出すというものである。フランクフルトをかう列の中で振り込み5件はレジにとって厳しいものであろう。レジの気持ちや、後ろに並んでいる人の気持ちを察すると複雑である。この場面では、複数の幸福がぶつかりあっている。レジとしては「早く仕事を済ませたい」というものや「世の中のためになっているという充実感」がある。振込用紙を出したサラリーマンにとっては、「早く振り込みをすまして仕事に戻りたい」というものや「コンビニに行っ

【資料2】



で一休みしたい」といった気持ちがあるだろう。店長にしてみれば「振り込みは早く終わらせてフランクフルトをどんどん売りたい」というものや「多くのお客様が様々な利用方法をコンビニに求めているのだな」という満足感があるだろう。このような、レジをめぐる複数の感情をどのようにとらえるべきなのかを生徒の心の中に意識させたいところである。

第二番目の出来事は、レジの列の後方にいる社長風の紳士が発した言葉に始まる。この人物は「私は列に並ぶのは待ちきれない。1000円払ってフランクフルトを買うから、先にレジを済ましてくれ。」と言うのだ。これに対してアルバイトのあなたはどのように対応しますか？という問題である。ここでもレジをめぐる様々な幸福が対立している。レジと店長の心の動きの例は前述した。社長風の紳士は、お金の力で順番を一番にしてもらおうという幸福感があげられる。レジとしては自分の幸福感を満たすための発言をすることもできるし、様々な人の立場を理解した上での発言もできる。よりよき社会を形成するためのアルバイトの行動を考えるきっかけをつかむための設問になる。

第三番目の出来事は、やはりレジの後方からの発言にはじまる。小学生が、隣にいる老婆をみて「こちらにいるおばあちゃんは立っているのもつらそうにしています。苦しそうなのでレジを先に済ませてあげませんか？」とレジに向かって言うのだ。この発言にレジ担当者としてどのように答えるべきかを考えるという設問である。ここでも複数の幸福が対立している。新たに加わった老婆の幸福の例として、早くレジをすませて座りたい、早く帰ってフランクフルトを孫に食べさせたい等が想像される。この場面でレジ担当者は自らの幸福感を満足させる発言もできるし、他者の立場を考慮した発言もできる。

以上、フランクフルトの安売りセールをきっかけとして起こった様々な人間模様を、身近な「幸福と幸福の対立」としてとらえ直して教材化を試みた。この場面設定から多くの高校生が様々な記述を寄せてきた。このデータを分析し、生徒の記述がどのように変遷していくのかを追いかけてみることにする。

(2) 予備調査の実施

本研究をまとめるにあたって、前年に予備調査を行った。対象とした生徒は学年が混在した公民科のクラスで、男子25名、女子57名の計82名である。

(ア) 振り込み用紙5枚を前にしたアルバイトの対応

前述した一番目の出来事である「サラリーマンが振込用紙5枚をレジに出した」件における生徒（レジ）の自由記述を分析したところ、79%の生徒が否定的な記述をしていることがわかった。典型的な答えとしては「どうしてこんなにレジが混んでいるときに振込用紙をだすのか!」といったものが多かった。多くの生徒（レジ担当者）は、自らの幸福を優先する傾向が強いということが読み取れた。一方で、21%の生徒は異なった視点からの記述であった。具体的には「お客様だから仕方がない」という職業人としての考え方を示した記述や「他のお客様を待たせてしまって申し訳ない」という他者の気持ちを想像する記述、「おばあちゃんが後ろに並んでいるのに」という、教師の次の発問を先読みするような指摘もあった。また、「……」というような、何をどうしたらよいのかわからないということを表現しようとした生徒もいた。

(イ) 千円払うから先に精算して欲しいという客に対する対応

ここでは、お金の力で自らの欲望を満たそうという人物に対して生徒（レジ担当者）が

どのように対応するのかという問題を設定した。授業中の生徒の発言として、「お金の力で順番をかせようとすることに怒りを感じる」といった意見が多く出された。一方で、店長の立場から「店としては利益が上がるからいいのかなあ」といった発言もあった。これを聞いて「1000円の収入は入るけど、それを見ていたお客さんたちが怒りを感じて次から来店しなくなるよ。だから、トータルの利益を考えると、一時的な1000円の売り上げに飛びつくことはないんだ。」という発言があった。一人ひとりの幸福を最大化するためにはどうしたらよいのかという論点で様々な方向から意見が出された。この後にレジ担当者としてどう考えるのかという問題を出して自由に記述してもらった。その結果、98%の生徒が「順番をかけるべきではない」という趣旨の文を書いた。2%の生徒が「次の人に少し待ってもらい、Gさんに買ってもらったほうが1000円もうかる」と記述した。

(ウ) 老婆の順番を先にしてあげようという小学生の提案に対する対応

次に後方に並んでいる小学生がレジに向かって「こちらのおばあちゃんがつらそうです。順番を先にしてあげませんか」という発言をする。先ほどはお金で順番をかけるかどうかという問題であったが、今回はレジ担当者と他者（弱い立場の人）との関わりを考えることになる。しかも提案者が小学生である。授業中の発言としては「おばあちゃんがかわいそうだから順番をかえた方がいいのではないか」という意見や「世の中のルールを守らせるということを小学生に教えるべきではないか。だから順番はかえてはいけない。」という意見が出された。この事例に関しては、先ほどのお金で順番をかけるかどうかというときよりも極端な意見が出された。おばあちゃんの立場に立って順番をかけることを強く主張するものもあれば、逆に「つらそうにしているだけなのかもしれない」という極論まで様々な価値観で意見が出された。レジ担当者として小学生にどのように回答するのか？という設問で自由記述をした結果、「おばあちゃんの順番を優先することを認める」という意見は42%で「もともとの順番を重視するべきで、並ぶ順番はかえない」という記述が58%であった。同じ順番をかけるという設問でもこの二つの間には大きな違いがでた。

(エ) 予備調査を振り返って

以上が予備調査の概要である。この調査の成果として、第一に生徒の授業に対する取り組みが前向きであったことがあげられる。中学校での学習との接続を意識して作成したワークシートで、身近な題材を用いて考えていくというスタイルは、多くの生徒に受け入れられた。第二にその身近な内容をもとに、経済の学習を「効率」と「公正」という視点で学び直すことができたことがあげられる。中学での経済学習を高校の教室で掘り起こすきっかけができたのではないかと考える。第三に、教室の状況を考えると、従来の「現代社会の諸課題」を学習してから「経済」の単元に入るよりは、「経済」の学習を行ってから、「現代社会の諸課題」を学習する方が、環境、生命、情報を中心に大きな枠組みで「幸福、正義、公正」に関する学びが深くなるのではないかと問題意識がより現実化してきたことがあげられる。以上の点から、今回調査に使用したワークシートに大きな欠陥は見当たらないということを認識できたので、これをもとに検証授業に入ることにする。この授業の中で、生徒が「効率」と「公正」、そして「幸福、正義、公正」をどのように学ぶ準備を整えていくのかを検証していきたい。

(3) 検証授業の結果

(ア) 検証授業の概要

検証授業を展開したのは公民科のクラスで、対象生徒は男子6名、女子5名の計11名の生徒である。このクラスのカリキュラムデザインは次のように考えた。

第一に、どのようにすればコンビニのレジ業務を効率よく、しかもお客様にとって公正に行うことができるのかという「効率と公正」について考えさせたい。

第二に、そのコンビニの狭い空間の中でぶつかり合う身近なレベルでの「幸福」と「幸福」の対立をどのように捉えるのかということを考えさせたい。(註4)

第三に、この様々な人間の欲望のぶつかり合いを経験した後に、経済学の考え方を物語性を持たせて学習する。この時用いた教材は『レモンをお金にかえる法』と『続レモンをお金にかえる法』である。教科書の内容をストーリー性を持たせて描いた作品である。

第四に、再びコンビニのアルバイトという設定に戻り「コンビニに行こう」の教材を用いて振り返りを行う。高校生の視点がどのように変容したのかをつかみ取りたい。

第五に、ここまで学習内容を整えた上で初めて「環境」「生命」「情報」といった大きな課題をとらえながら「幸福、正義、公正」について理解させるというコースである。

【資料3】

(イ) 振込用紙5枚を前にしたレジの反応

前出したワークシートで予備調査と同様に、前から二番目に並んでいる残業前のサラリーマンが振込用紙を5枚出したときのレジ1担当者の反応を分析した結果は資料3の通りである。否定的な回答と、どのように回答したらよいのかわからないという回答が4名ずつであった。次に多かったのが、この現実を受け止めようという記述で2名いた。記述なしは一名であった。

この結果から、この混み合っているタイミングで振り込みを依頼する行為を否定的にみていることや、あまりに突然の予想外の行為の出現に右往左往している生徒が多いことが読み取れる。

2	とてもたいへん。人が多いのに面倒くさい
3	後の人がまだ沢山いるのに時間がかかる注文をしてきて困る。
5	残業終わってからにしろよ。
8	振り込みだど!!
12	いや、ちょっと何しているかわからないですね
18	何も見ていない。
19	
20	来てしまったのか…このタイミングで。
23	?
25	おっ?
30	店長助けて

【資料4】

(ウ) 千円払うから先に精算して欲しいという客に対する対応

これも予備調査と同じ問いかけ方をした。その結果をまとめると資料4のようになる。

最も多かった対応は、「ちょっと待ってください」と一呼吸おいて、考える時間をつくるというものであった。次に少数意見として「それはできない」というものと「お金が多く入るのだから優先させる」という意見が出された。予備調査から、順番を守ることを重視する生徒が

2	それはできないので後ろでお待ちください。
3	金が多く手に入るなら先に払わせる。
5	もうしばらくお待ちください とGに言う。
8	
12	申し訳ありませんが少々お待ちください。 または 金を払ってくれるのはいいが、おまえのその態度が気に入らない。
18	とりあえず待ってください みたいなことを言う。
19	「すみません。もう少々お待ちください。」順番が来たとき「すみません。お待たせいたしました」
20	他のお客様もいますのでもう少々お待ちください。ご協力をお願いいたします。
23	順番を守ってください。
25	
30	Gさんに申し訳ございません、少々お待ちできませんか?と直接きく。

多いのではないかと予想されたが、突然の社長風紳士の提案に戸惑いを見せており、どのように対応することが適切なのかを考えている様子が読み取れた。

(エ) 老婆の順番を先にしてあげようという小学生の提案に対する対応

この問いかけも予備調査と同じである。レジ1の反応の結果は**資料5**のとおりである。

この場合、直前にあった「(ウ) 千円払うから先に精算して欲しいという客に対する対応」という内容とは状況が異なるという雰囲気を感じ取ったの対応が多く見られた。これらの発言を分析すると下のように分けることができる。

【資料5】

2	とりあえず早くレジをやろうとする。
3	おばあちゃんの見聞を聞く。
5	店長にレジに立ってもらって先にやらせる
8	順番を優先する。
12	申し訳ありません。後ろのお客様を先に会計させていただいてよろしいでしょうか？
18	先にやる。
19	「すみません。もう少しお待ちください。」順番が来たとき「すみません。お待たせいたしました」
20	
23	はやくレジを済ませる。
25	休ましてあげる。
30	順番は順番！！

- 「順番重視型」・・・・単純に順番を優先するタイプ→3
- ・レジの作業をはやくしてかつ順番を重視→2
- 「当事者意見聴取型」・・・老婆の意見を聞くタイプ→1
- 「順番逆転型」・・・・小学生の意見を取り入れて老婆を最優先→1
- ・条件付き逆転→1
- 「緊急事態型」・・・・緊急事態と判断し店長に助けを求める→1
- 「提案型」・・・・老婆に座って休憩してもらおうという提案→1

予備調査も、検証授業でも多くの生徒が「順番をどう決めるのか」という設問に様々な基準を用意した。どれが正しくてどれが間違っているのかという基準で授業を展開するのではなく、「どうしてそう考えたのか？」という点を中心に話し合った。様々なディレンマの中で、これからの社会を形成していくために日常生活の中から解決方法を考えることができた。経済学習の扉の前に立ったともいうべきであろう。

当日の授業感想をまとめると**資料6**のようになる。

【資料6】

2	
3	
5	
8	楽しかった。
12	とても興味深い授業でした。この人を助けるための考えである政治的な考えが・・・人を殺す戦争になる。ひどい冗談ですね。
18	損をしても最終的に目的にたどり着けばいいと思った。
19	おもしろい授業だった。次はどんな授業なのか楽しみだ。
20	
23	
25	たとえ話が身近なことで話してくれたからわかりやすく楽しかった。
30	とりあえず今後の授業が楽しみです。なんとなく大人に近づいている気もする。

(4) 経済の基本的な学習

(ア)『レモンをお金にかえる法』の内容

次に、高校で学ぶ経済の学習内容に入ることにした。用いた教材はルイズ・アームストロング著、佐和隆光訳『レモンをお金にかえる法』である。この教材では、「私」がレモネード店の経営をはじめるところから物語が始まる。その概要は次のとおりである。

【資料7】

レモンと砂糖と水を原料としてレモネードを作り販売することにはじまり、市場価格、初期投資、資本貸付けから、労働者の不満をきっかけとする経営のつまずき、ストライキ、交渉、調停にと進む。競争、価格戦争、利益の減少にまで言及し、最後に若い企業家は、合併を成功させて資産を流動化した後、バカンスを楽しむという物語である。

レモネード店を舞台に愉快的ストーリー展開で自然に経済学の知識が身につくような仕掛けが隠されているところに実践者としては魅力を感じている。この物語で経済学のおもしろさを感じた生徒に『続レモンをお金にかえる法』を紙芝居にして提供した。(資料7)

“レモネードがとびきりおいしい”と評判になっている時に、突然新聞紙上に「レモンの不作」が報じられる。“重大な経済危機”に直面した彼らを襲ったのはレモンをはじめとする原料の値上がりによる製品の価格高騰であった。犬小屋をつかって売る商売のダイアンは、大好きなレモネードを飲むために、犬小屋の値段を上げるほかに道はない。車あらいのビーウィーや、しばかりのサンディーも、値上がりしたレモネードを買うために、賃金を上げてほしいと発言する。賃金と物価のおいかけっこがはじまり、社会の病気であるインフレーション、小さな企業の倒産、失業の増加へと続いていく。大不況の到来である。この社会の病気に対して薬が必要だ。具体的に、新しい仕事をつくったり、資金の貸付けをしたりして経済を元気づけるための努力がおこなわれ、その結果、失業は減少し、生産が上がっていくのであった。このようにして経済は元気を回復するというストーリーである。不況から景気回復に至るまでの仕組みが簡単にわかる経済学入門の絵本である。

(イ)『レモンをお金にかえる法』の教材化の方法

この高校生の心を強くとらえることが予想される絵本のイメージを共有化するためにパワーポイントに貼り付けて紙芝居方式で授業を進めることにした。

(ウ) 生徒の感想

この二本の紙芝居『レモンをお金にかえる法』、『続レモンをお金にかえる法』の授業



後の生徒の感想をまとめると資料8のようになる。

【資料 8】

2	ジョニーが戻ってきてよかった。なかなか楽しく授業が受けられてよかった。こういう授業が多くあれば楽しい。
3	経済を無理なく学べて良かった。今までは全くわからなかったけど理解できてよかった。
5	薬をうっても何回もインフレとデフレを繰り返すからできれば安定していただきたい。
8	
12	インフレーションって言葉はあまり悪い言葉ではないと思っていたのですが、病気のようなことになっているのだとわかってびっくりした。
18	わかりやすかった。今回思ったのは、社会は歯車同士がまわって成り立っているんだと思った。
19	わかりやすく、授業を受け入れられてよかったです。頭に入りやすい授業でした。
20	経済の仕組みやどうなるのか、わかりやすく中学などで学んでいたときより頭に入りやすかったです。
23	経済状況の変動が与える事態がいろいろなことを生み出すということが軽くショックだった。
25	テレビで言っている難しいことがわかりやすかった
30	ジョニーがまた働いているから、なんとなくジョニーも大変そうだと思う。

参考までに、予備調査においてもこの教材を実践したのだが、その時の生徒の自由記述の結果を分析すると、「理解しやすい」「わかりやすい」という表現を直接記述している生徒が41%いた。自由記述の中で約4割の生徒が同じ表現で「理解」や「わかりやすい」ということばを用いた点に注目したい。また、このことばを使わなくても、約85%の生徒がこの教材で学習したことをプラスに受け止めていることがわかった。

(5) 二度目の「コンビニに行こう」の実践

(ア)「もう一度コンビニに行こう」

ここまで、「コンビニに行こう」で身近な生活の中から「経済」を見て、さらに物語性の高い教材で基本的な「経済の仕組み」を学習した。特に、「レモンをお金にかえる法」における生徒の発言で目立ったのは、企業が合併するシーン（資料9）で、企業側に立った発言と消費者側に立った発言の両者が見られたことである。

【資料 9】

企業側としては合併して販売価格を高くした方が利益は上がる。よってこの立場での生徒の発言としては、「元々50円で販売していたレモネードを一杯14円で売るなんて経営が苦しくなっちゃいます」というものであり、同意見も多数出された。しかしその一方で消費者側の立場に立った意見として「企業が合併してしまうと価格が上がり、私たちが損をするのではないか」というものであ



る。企業側に立った発言をした生徒はこの意見を聞き「それもそうだな。」と納得していた。一つの現象を、複数の視点で見るという体験をしたわけである。経済を学ぶ場合、限られた資源をどのように配分するべきなのかを考えなくてはならない。その場合、その限られた資源を供給する側と、買う側に分かれることを意識することは重要な感覚である。ストーリー性のある教材だからこそ、生徒の心を大きく動かしたのであろう。この複数の視点から見るという経験をした後に、「もう一度コンビニに行こう」ということで冒頭で提示したワークシートを再度実践した。コンビニのレジでアルバイトをする生徒諸君の回答に変化はあったのであろうか。詳しく見ていきたい。

(イ)「もう一度コンビニに行こう」の実践結果

基本的には、本稿 4－(1)－(イ)で示した「「コンビニに行こう」の概略」と同じものを用いた。出会うディレンマも前回と同じであり「レジに並んでいる中でサラリーマンが振込用紙を 5 枚も出した時のレジの対応」、「1000円払うからレジの順番をはやくしてほしいと発言する社長風の紳士」、「小学生がレジでつらそうに並んでいるおばあちゃんを思い、順番を入れ替えてほしいとレジに提案する場面」の三つである。レジ 1 に立っている高校生はどのような対応をするのであろうか。一つひとつ見ていくことにする。

【資料10】

左側が経済学習前で右側が経済学習後の結果である。自由記述であるが、大きく項目に分けると次のようにまとめることが出来る(資料10)。

5枚の振込用紙を前にして		
No	経済学習前	経済学習後
2	とてもたいへん。人が多いのに面倒くさい	またかよ。忙しくなるからやめてほしいんだけどなあ。早く終わらせてしまおう。
3	後の人がまだ沢山いるのに時間がかかる注文をしてきて困る。	時間がかかる
5	残業終わってからにしろよ。	ささとやっしまおう
8	振り込みだ!!	
12	いや、ちょっと何しているかわからないですね	社長ががんばっているな!
18	何も見ていない。	この人いつもがんばっているな。大変だけどさく終わらせてしまおう。それが両者にとって一番よいことだ。
19		
20	来てしまったのか……このタイミングで。	あ……また振込用紙多量だ……。はやくチェックとハンコ押して動かさなきゃ。
23	?	次の人どうぞー
25	おっ?	忙しい人なんだな
30	店長助けて	あんた がんばるねー。

経済学習前		経済学習後	
この行為に否定的な考えを持つ	4	受け入れる	8
どうしたらいいかわからない	4	回答なし	2
受け入れる	1	この行為に否定的な考えを持つ	1
助けを求める	1		
回答なし	1		

レジの行列に並んでいるサラリーマンが突然振込用紙を 5 枚出してきたという想定であった。経済学習前はこの行為に否定的な生徒が大半であったのだが、経済学習後にはほとんどの生徒がこの行為を受け入れる姿勢を示している。相手の立場を想像したのであろうか、自らの業務をはやくすることで危機的状況を回避しようとする姿勢が見られた。

次に、「1000円払うから順番を入れ替えてほしい」と要求してきた社長風紳士の行為に

対する反応の変容を見ると資料11のようになる。

この自由記述も同様に内容を大きな項目に分けると次のようになる。

【資料11】

「1000円払うから順番をかえてほしい」発言を聞いて		
No	経済学習前	経済学習後
2	それはできないので後でお待ちください。	お互いの幸福がよい感じになるようにバランスよく求めていることをする。差をばやく減らせること。
3	金が早く手に入るなら先に払わせる。	客にさせる。客からの信用。
5	もう少し早くお待ちください。と店に言う。	頼むから何も言わないでくれ。少しがまんをする。 並ぶ順番を受えち。
8		
12	申し訳ありませんが少々お待ちください。または金を払ってくれるのはいいが、おまえのその態度が僕に入らなう。	あんたが騒がなかったら平和的にすむんです。静かにしてくれ。ゆずり合いの精神
18	とりあえず待ってください。みたいなことを言う。	皆並んでるの。ルール守ってほしい。誰かが自分の思う幸福をあげるのばいいい……。
19	「すみません。もう少しお待ちください。」順番が来たとき「すみません。お待たせいたしました」	
20	他のお客様いますのでもう少しお待ちください。ご協力をお願いします。	理解してくれることを望んでいる。
23	順番を守ってください。	譲り合えればいいと思う。(順番どおり)
25		ある程度並ぶの(順番は守る)
30	なさんに申し訳ありません。少々お待ちできませんか？と直接聞く。	またお前か……いい加減そのくせよくないから直してほしい

経済学習前		経済学習後	
順番をかえることは出来ないと考える	8	順番をかえることは出来ないと考える	8
金を受け取り順番をかえる	1	金を受け取り順番をかえる	1
未記入	2	未記入	2

お金で順番を入れ替えようとする行為に対しては、経済学習前後を通して厳しい対応が一貫して続いている。

それでは、この順番を入れ替えようと提案したもう一つの場面である小学生からの指摘による変化を見てみよう(資料12)。

この自由記述も同じように大きな項目に分けると次のようになる。

【資料12】

小学生の発言を聞いて		
No	経済学習前	経済学習後
2	とりあえず早くレジをやろうとする。	わかりました。では、お婆ちゃん、先にレジどうぞ。
3	お婆ちゃんの意見を聞く。	今の発言を聞いて、順番は早めさせていか、客に聞いて、早めてもいいと思う人がいたらゆずってもらう。
5	店長にレジに立ってもらって先にやらせる	順番は順番だ。順番を守ることは大事だろう。
8	順番を優先する。	
12	申し訳ありません。後ろのお客様を先に会計させていただいてよろしいでしょうか？	周りの人にお婆ちゃんを前にしていいか聞いてみてね？それでよかったら前にどうぞ
18	先にやる。	君は優しいんだね。すみませんが、お婆ちゃんを先に会計させていただきます。
19	「すみません。もう少しお待ちください。」順番が来たとき「すみません。お待たせいたしました」	
20		今の並びをかえるから少しお婆さんの側についてあげてくれますか？
23	はやくレジを済ませる。	すぐ終わるからちょっと待っててなー
25	休ましてあげる。	
30	順番は順番！！	正義気取りか！？

経済学習前		経済学習後	
順番重視型	5	順番重視型	3
当事者の意見を聞く型	1	当事者の意見を聞く型	0
緊急事態	1	緊急事態	0
逆転型→提案型逆転	1	逆転型→提案型逆転	2
無条件逆転	1	無条件逆転	3
別の提案型	1	別の提案型	0
無回答	1	無回答	3

ここからは、弱者に対しては特別の配慮が必要であるという意見に傾いた生徒が増えたということと、その一方でルールが大切だと主張し続けており、順番を守るべきだという意見も根強く残っていることが読み取れる。

(6) 実践結果の振り返り

以上の結果を振り返り、まとめると次のようになる。

第一に、経済学習を物語に乗せて学ぶことによって、需要面と供給面という複数の視点で社会の仕組みをとらえるという学びを行った。このことを身近な生活に落とし込んで考えた結果、目の前の経済行為を多様な視点で捉えるようになったということが認識できる。

第二に、この多様な視点については、どの視点が優れていてどの視点が劣っているという価値観を伴って評価すべき対象ではないということがあげられる。社会の仕組みを一面で見ていた生徒が、多面的な見方をするようになったという変化を評価すべきである。

第三に、このような教室で実践された社会の仕組みを多面的に見るという行為と、「社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などを理解すること」は密接な関係にあると考える。生徒一人ひとりが、主体的に考察することが可能になるという条件整備を行った上で、はじめて大きな枠組みである現代社会の諸課題を扱うべきではないか。

第四に、この条件整備の基盤は、すでに小中学校での学びでつくられつつあるものである。この学習の成果を高校でさらに発展させるために、「再構築」という概念が必要なのではないかと考える。小中学校での学びを一度解体して、そこに高校での学びのパーツを加えてより大きく再構築するカリキュラムづくりをするという考え方が必要なのではなかろうか。学習指導要領に書かれている「中学校社会科…との関連を図る」というのは、単なる接続ではなく、ひとつの教室ごとに行われる学びの再構築という行為を表しており、このことによって、一人ひとりの生徒の学習基盤が強力に創り上げられていくと考える。

5. おわりに

本稿の趣旨をまとめると次のようになる。

第一に、本研究を実践するフィールドの高校生において、学習指導要領に定められている「幸福、正義、公正」を理解させるためには中学校での学びとの接続教材を作成する必要があるということをまとめた。第二に、その接続教材で身近な生活における「幸福と幸福の対立」を学び、その上で教科書にある経済の学習を物語性のある教材で学ぶことが有効なのではないかということをまとめた。第三に、その有効性を認識するために、再度前述した接続教材を用いて学習し、その記述内容を分析して検証した。その結果、多くの高校生の物事の見方が多様化してきていることを認識した。第四に、このように条件を整えた上で、学習指導要領の「現代社会の諸課題」としてあげられている「情報・生命・環境」という大きなテーマで「幸福・正義・公正」を考えると、一人ひとりの生徒にとってより深い学習が展開できるのではないかと考える。第五に、このことは、一つひとつの教室が創造的な実践を行うことが、学習指導要領にある目標達成に有効なのではないかという問題提起につながっていくのではないかと考える。

以上、高等学校の一教室における小さな実践からカリキュラム構築についてささやかにまとめてみた。取り上げたテーマが筆者の力量をはるかに超える大きなものであるということは認識している。この大きなテーマに向けて本研究が、教師の側からのカリキュラム開発における一実践研究の小さな各論として位置づけられたら幸いである。

以上で本稿を閉じる。

【註】

1. 『高等学校学習指導要領』 p 47, 48
2. 高校生の日常生活での「幸福」と、高校の授業で学ぶ「幸福」との違いを整理したうえで、両者の接続を可能にするカリキュラム構築を目指す必要があると考える。
3. 「生命，情報，環境」を題材にして「幸福・正義・公正」を理解する前に，日常生活の中で幸福と幸福の対立を考えるという練習をしておくことが有効だと考えた。
4. 高校公民科においては，「生命，情報，環境」といった大きな枠組みで社会の諸課題を捉えて「幸福・正義・公正」を理解することになっている。

【参考文献】

- ルイズ・アームストロング『レモンをお金にかえる法』河出出版 2005
ルイズ・アームストロング『続レモンをお金にかえる法』河出書房 2005